

**Citation:** Park EW, Schultz JK, Tudiver FG, Campbell T, Becker LA. Enhancing partner support to improve smoking cessation. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2004, Issue 3. Art. No.: CD002928. DOI: 10.1002/14651858.CD002928.pub2.

**CRG名:** Tobacco Addiction

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 24 February 2008

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 3, Updated

**背景:** 喫煙者のための禁煙支援プログラムは多く存在しているが、パートナーの介在が長期的禁煙を促進する可能性が研究により示されている。

**目的:** 本レビューの目的は、パートナーによる支援を強化するための介入を禁煙プログラムに加えた場合の効果を評価することである。

**検索戦略:** Cochrane Tobacco Addiction Group specialized register(2007年10月)、Cochrane controlled trials register(2007年10月)(1966~2007年10月)、MEDLINE(1966~2007年10月)、EMBASE(1974~2007年10月)、PsycINFO(1861~2007年10月)を検索した。検索語は、smoking(prevention, control, therapy)、smoking cessation、およびsupport(family, marriage, spouse, partner, sexual partner, buddy, friend, co-habitees, co-worker)。

**選択基準:** パートナーによる支援を含む禁煙介入と含まない同一の禁煙介入を比較したランダム化比較試験で、追跡期間6か月以上のものである。

**データ収集と分析:** 2人の著者が独立して検索された研究を確認し、構造化フォームを用いてデータを抽出した。意見の相違は、第3の著者の助言により解決した。禁煙(可能であれば生化学検査により確認)を主要アウトカム指標とし、2種類の介入期間(6~9か月後、12か月以上)のデータを抽出した。パートナーによる支援を評価するため、PIQ(パートナーとの相互作用に関する質問票)解析も実施した。固定効果モデルを用いて各研究の相対リスクを統合し、総合的効果を推定した。

**主な結果:** 本レビューでは、合計49の論文が検索された。うち選択基準を満たしたのは10論文(研究11件、参加者2,000例超)のみであった。パートナーの定義において、研究間でのばらつきがみられた。すべての研究で自己申告による禁煙率が報告されていたが、生化学検査により確認された禁煙については限られていた。自己申告による禁煙のリスク比は、介入6~9か月後で1.01(95%信頼区間(CI)0.86~1.18)、12か月後で1.04(95%CI 0.87~1.24)であった。パートナーによる支援を追跡評価した6研究のうち、介入群でパートナーによる支援の有意な増加が報告されたのは2研究のみであった。

**レビューアの結論:** 禁煙プログラムにおけるパートナーによる支援の効果を評価したランダム化比較試験をレビューした結果、禁煙率の増加を検出することはできなかった。数件の試験による限られたデータでは、これらの介入はパートナーによる支援も増加させなかった。パートナーによる支援が禁煙に与える影響についての結論は得られなかった。パートナーによる支援を従来の禁煙プログラムに組み込む場合には、パートナーシップに十分な影響を与えるシステムティックな介入を実施すべきである。

(翻訳 坂本泰理・星 佳芳 監訳 中村正和; JCOHR)

翻訳公開日: 10年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版

